

# 評価報告概要表

## ■第三者評価機関

名 称	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
評価調査日	平成21年11月12日(木)

## ■福祉サービス事業者情報

名 称	伊保庄園	種 別	特別養護老人ホーム
代表者氏名	園長 田代修一	開設年月日	平成17年4月1日
設 置 者	社会福祉法人 山口県社会福祉事業団	定員(利用人数)	114名(101名)
所 在 地	〒742-1352 柳井市伊保庄1-2		
電 話 番 号	0820-27-0840	FAX番号	0820-27-0841
ホームページアドレス	<a href="http://iigyodan-yg.jp/ihonosyou">http://iigyodan-yg.jp/ihonosyou</a>		

## ■総 評

### 全体を通して(事業所の優れている点、独自に工夫している点など)

#### ◇特に評価の高い点

当施設の第三者評価の受審は今回が2回目となりますが、前回の評価内容結果を踏まえ、多くの事項について真摯に改善へ取り組まれておられました。施設の将来的展望を見据えた中長期計画が継続して策定され、年度ごとの事業計画も理念や基本方針の実現を目指した具体的なものとなっていました。

施設長が各種会議や委員会などに積極的に参画され、全職員を集めた指導を行うなど、管理者としてのリーダーシップを遺憾なく発揮されている様子がうかがわれました。

職員が独自の自己評価を年2回実施し、常にサービスの質の向上に熱心に取り組まれております。また、サービスの質の確保のため各種マニュアルが整備され、その見直しや周知のため各種会議が開催されており、職員会議、職員研修、各棟での伝達など職員間での福祉サービスの質の向上に向けた共通意識の高さが見受けられました。

利用者満足のための利用者懇談会が毎月開催され、家族会も年2回開催されるなど、利用者本位の姿勢を忘れない一貫した福祉サービスの浸透が図られています。

#### ◇改善を求められる点

施設の性格上、利用者の人権、個人情報保護の観点から地域交流の拡大や施設機能の開放においてはある程度の制約があると思われませんが、地域福祉のリーダー役として、また地域社会の一員としての社会的役割を果たすため、施設の持つ専門的な技術や情報を提供していくことは、大きな意味を持っています。地域交流スペースの更なる活用や介護等についての技術講習会や講演会などの開催をされるとよいと思います。

## ■第三者評価結果に対する事業者のコメント・事業所のPR

2回目の受審を受け、前回以上の評価をいただいたことは『その人らしさを大切に』を法人理念にした当園での利用者サービス向上への取り組みが実を結びつつあると受け止めています。

反面、更にサービスの質の向上を目指していく努力が求められています。

利用者や家族の方々から『伊保庄園を利用して良かった』と実感していただけるよう、今後も安心・安全な生活を支えていきたいと職員一同思っているところです。

# 評価報告概要表

## ■評価分野別評価結果(分野別の特記事項)

I 福祉サービスの基本方針と組織	a	12	b	0	c	0	Na	0
<p>職員や利用者、家族に対する理念や基本方針の周知への取り組みが継続的に行われていることにより、職員の日常の業務への意識付けや福祉サービスの深化が促進されています。また、理念や基本方針の実現に向けた中長期計画が前回に引き続き策定され、その内容は事業計画にも反映されています。</p> <p>事業計画は、現場の職員の意見を集約し、部門別に検討した上で策定されており、家族会や利用者懇談会で説明されています。施設長は4月に着任後施設内外の会議に積極的に参画し、半年を経過して施設長としての思いを伝えるなど強いリーダーシップのもと施設経営に励んでおられます。</p>								
II 組織の運営管理	a	13	b	5	c	4	Na	0
<p>平成19年度より、新たに人事考課制度を導入し、人材の能力開発・育成と公正な職員処遇をめざす試みは高く評価できます。また、職員の自己申告書を基に、個別面接を行い、職員の業務への意向や研修の希望などを把握し、職員の仕事への意欲を高めておられます。</p> <p>法人・事業所単位での教育・研修計画は非常に充実した内容で行われ成果も上がっていますが、さらに、職員一人ひとりの持つ技量や研修成果について評価・分析し、その結果に基づいた個別の研修計画が立てられると、より高い質の向上が図られると思われれます。</p>								
III 適切な福祉サービスの実施	a	22	b	0	c	0	Na	0
<p>利用者を尊重し、利用者の満足の向上に努める中、福祉サービスの実施内容について定期的に自己評価を行う体制が整備されています。また、評価結果を分析・検討し、その結果や課題を事業計画に反映するサービスの質の向上に向けた取り組みは高く評価できます。</p> <p>利用者の日々の状況等は朝礼を始め各棟・各部署で横断的に各職員に伝達され、組織的な情報の共有化が行われています。施設サービス計画は、サービス場面ごとのニーズや課題が詳細に記載され、栄養ケア計画や個別機能訓練計画なども併せて作成され、利用者一人ひとりに見合った適切なものとなっています。</p> <p>各種サービスマニュアルについては適切に整備され、定期的に行われる職員会議や研修会、委員会等で職員に周知されるとともに随時見直しが行われていました。</p>								
IV 良質な個別サービスの実施	a	27	b	0	c	0	Na	1
<p>日常での関わり合いはもちろんのこと、月1回の利用者懇談会や年2回の家族会の開催、利用者満足度調査、アンケートの実施など様々な形で利用者のニーズを引き出す工夫がなされ、利用者の意向が尊重された個別の支援が行われています。</p> <p>日常の生活支援では、前回の第三者評価で指摘を行っております食事について、利用者個々の状態に応じた食事が計画的に実施されており、喫食環境への細かい配慮など、常に改善に向けた取り組みをされていることは高く評価できます。また、誕生会に家族を招待したり、職員によるドライブ外出、利用者の指導をお願いしての若い職員との園芸活動など、利用者の余暇活動や生きがい作りの支援も評価できる内容です。</p>								